

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702107
法人名	(株)エルデーサービス
事業所名	グループホーム折尾東
所在地	福岡県北九州市八幡西区丸尾町6-22
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成28年1月13日	評価結果確定日	平成28年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、入居者様が地域の中で「自分らしく」日々楽しく過ごしていただける様、常に入居者やご家族の「思い」を大切に「笑顔」で支援を行っている。
近隣の保育園などの交流もありふれあいをたのしんでいる。
併設のデイサービスがあり、毎年合同で夏祭りや餅つき大会を行い入居者やご家族に好評となっている。
法人内には、デイサービスセンター・ヘルパーセンター・在宅介護サービスセンター等があり地域のの方々やご家族の相談にも大いに活用されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利便性の高い住環境の中、併設されたデイサービスとともに、夏祭りや餅つきなどの季節行事や災害訓練、保育園児の慰問やボランティアの受け入れ等、地域とも多様に連携を図りながら、事業を運営している。また法人全体で介護従事者養成や地域密着型サービスの質の向上に向けた研修など地域への貢献を行っている。昨年は自由が丘高校のインターアクトクラブ(清掃チーム)と吹奏楽部が事業所に訪れ、居室を含む事業所全体の清掃やハンドベル演奏や歌の披露を行い、新聞に掲載されるなど地域交流、年代交流が拡大されつつある。今後も地域に根差したホームの理念を根源に実績が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につきやすい場所(玄関入口)に掲示しており、毎日のミーティングや定例会に理念を唱和し、日々の業務の中でケアやサービスの支援に努め実践にむけて取り組んでいる。	開設当初より同法人地域密着型サービス事業所としての理念を掲げられている。毎朝のミーティングや定例会の際に唱和し職員間で共有認識するようにしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し組長としての役割もはたし回覧板や市政だよりを配布するなどをして地域住民としての役割をし連携に努めている。	開設当初より自治会に加入し、組長としての役割も担っているため、地域住民とは顔見知りや相談しやすい関係づくりができています。折り紙や生け花ボランティアの受け入れや保育園児の慰問、戸畑祇園や山笠など地域とつながりながら暮らせるように努めている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などに於いて、地域の方から認知症高齢者の対応等の相談をうけアドバイス等を行っている。電話や見学者からの相談にたいしても出来ることがあれば敏速に対応するように心がけている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。運営推進会議では、外部評価の結果を報告する取り組みや活動状況の報告や家族会へ報告も行い意見や要望をお聞きし得た情報を検討し業務に活かせるよう努めている。	運営推進会議は定期的に開催され、事業報告や意見交換が行われている。家族へも参加を呼びかけ、3組程度の家族の参加もあり、入居者とともにリビングにて行っている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	北九州市の担当課とは常に連絡をとり、情報交換を行っている。運営推進会議にも参加して頂き意見交換を行い協力関係を築いている。	市の担当課とは運営推進会議のほか、空床状況の報告や相談、運営については日頃より連絡をとるようにしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加や内部研修を行い職員で話し合い身体拘束をしないよう防止に努めている。日中、玄関は施錠しておらず自由に入出入りできるようにしている。	身体拘束については定例会や法人内外の研修に参加し、ケアについての振り返りを行うようにしている。言葉遣いやスピーチロックについては日頃より管理者が注意、指導するようにしている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加や内部研修を行い職員で話し合い日頃からの虐待を見過ごすことがないように注意し防止に努めている。職員間意見の言いやすい環境にし予防が出来るように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当グループにて成年後見人制度を利用している入居者が折り支援できる体制を整えている。外部研修にも参加して、内部研修を行い資料を配布し必要ときに活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度を活用している事例があり、定期的な訪問や連絡など連携をとっている。入居者のキーパーソンが亡くなる等状況の変化が生じた場合には必要に応じて制度の説明や相談窓口を伝えるなど支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は必ず文章と口頭にて説明し納得して頂けるように行っている。また、質問しやすい雰囲気作りを務めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し直接言いにくい事は、苦情箱に入れて頂くようにしている。運営推進会議では、入居者様ご家族にも参加して頂き意見や要望、苦情等を話せる機会を設けている。	家族会は1回/年開催され、食事を兼ね入居者のご家族どうしの交流の場ともなっている。面会時などに家族からの意見や要望を聞くようにしており、体調不良や内服の変更などの際にも管理者や看護師より家族へ報告するようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者が職員とヒヤリングを行い意見を聞く機会を設けている。その都度話し合いを行い運営に反映させている。	入居者のケアは担当制をとっており、個々のスタッフの意見は管理者が直接聞きながら対応や介護方法についてはスタッフ全員で振り返り、前向きに対応しながらケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	様々な状況に応じて勤務の調節を行い、柔軟な対応を心がけている。個人面談なども行い職員一人ひとり向上心を持って働ける環境の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は、年齢・性格等で排除する事はない。管理者は、定期的にヒヤリングを行い職員の向上心や業務に対する意見や提案を聞くように努め精神的フォローを心がけている。また、職員が生き生きと働けるよう研修等の受講を含めサポートしている。	職員の採用にあたり性別や年齢等による排除はしていない。資格取得や研修には勤務調整や手当等対応しており、育児中のスタッフや調理、夜勤など個々の事情に合わせ多様に対応し、働きやすい環境づくりに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修に積極的に参加し、内部研修を行い人権に対する意識を高めている。また、日々の暮らしの中でも入居者様の人権に配慮したケアを行うよう努めている。	外部研修や法人内の定例会を通じて、人権教育や啓発に努めている。入居期間が長い入居者に対しても馴染み合いにならないよう、言葉使いなど日頃から注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内4事業所(グループホーム)合同の研修計画をたてている。法人内他事業所との合同研修にも参加し研修会にて事例検討や外部研修の資料を配布し日々の業務の中で相互に意見をし学べる様な職場環境に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内4事業所のグループホームと定期的開催している研修会や相互の訪問を通して交流や情報交換を行っている。また、外部研修や勉強会を機に法人外のグループホームとも情報交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談に伺いゆっくりと話を聞き困っている事、不安な事、求めていることなどに対してご本人が入居する前までに出来る限り環境を整えるよう努める。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、御家と面談を行い御家族との関わり合い方や、御家族が困っていること不安な事、要望等を詳しく聞きごほんにんが安心して日々生活出来る事をお伝えしまた入居後も随時相談受け付ける事をお伝えしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族と話し合い、最も必要としている支援、サービスを考慮した対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で共に支え合い普通の何気ない会話を大切に、さりげなく支援する事によりお互いが「ありがとう」と伝える関係が築かれている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や来訪時に入居者様の日々の生活等をお伝えし行事の参加、病院受診の付き添い外出等職員と一緒にすることにより一緒に支えていく関係が築かれている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にしてきた馴染みの方と交流・馴染みの場所等、関係が途切れないようご家族と話し合い支援を行っている。	重度化しても家族の協力を得ながら、これまで大切にしてきた食習慣の継続など、支援している。昔からの職場の友人が電話をしてくたり来訪することもあり、その際には過ごしやすい環境や雰囲気づくりを行うようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の趣味を把握し皆様で楽しめるようなレクリエーションを行い利用者同士が関わりあえるよう支援している。また、職員が間に入り会話を盛り上げ日々笑顔で過ごせるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様のご家族へ管理者より連絡をとり現在の様子を伺ったり、御家族の方からの相談にはニーズに応じた関係機関を紹介するなどご本人ご家族が満足したサービスが提供できるように努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意思を職員で共有する為「ミーティングシート」により情報の共有化を図っている。入居者様との会話を大切に会話の中から本人の思いや意思を聴きとりアセスメントを行いケアやサービスの提供をおこなっている。	本人、家族の意向や希望はケアマネージャーが1回/月は確認するようにしている。重度化してきているが本人が望むようにその都度確認しながら、できる限り趣味や役割につなげられるように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との日々の会話や御家族からの情報により生活歴や馴染みの暮らし方や生活環境の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一人ひとりが「自分らしく」過ごして頂ける様心身の状況を理解し日々の変化など職員間での伝達を周知し現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や御家族から話を聞き、関係者とカンファレンスを行い介護支援専門員が介護計画書を作成している。	モニタリングは1回/月行われ、家族を交えた担当者会議も定期的に開催している。状態の変化に応じ家族へも方向性について意向の確認を行い、排泄や入浴など介護の計画に反映させている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、個別に記録しており日々の様子心身の状態、ケアの実践などが詳細に記載されている。また、気づきや工夫などは申し送りの際に話し合いミーティングシートにおとし職員間での情報の共有に努め介護計画の見直しに活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスを併設し、デイサービスのカラオケやマッサージ器を利用する事ができ合同での行事を楽しむことができ利用者との交流やふれあいの機会が多い。また、法人内の訪問介護・介護支援センター等があり本人や御家族に応じた支援をしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に一度の運営推進会議、ボランティアの方々による折り紙教室・生け花教室のかいさい、近隣保育園との交流などを行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特に希望がない方には、ご本人ご家族の同意を得て協力医に1ヶ月1回の往診または受診を行っている。1週間に1度の訪問歯科の往診を受けている。健康状態に問題が生じた場合は早急に受診を行い対応している。受診結果は随時ご家族へ報告している。	基本的には協力医の受診が2回/月あり、その際には同行し情報提供している。入居者の状態に応じ往診の支援も行っている。看護計画、モニタリングが実施され身体状況の共有が行われている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と常に連携をとり入居者の日々の状態を相談し日常の健康管理を支援している。また、看護計画を把握し入居者の状態の変化があった場合はすぐに報告し指示を仰ぐようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお見舞いに伺い入居者様が安心して過ごせるよう支援している。また、病院の医師や看護師、ソーシャルワーカーと連携し状況把握に努める。退院に向けてカンファレンスにはご家族と一緒に参加している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化してきた場合かかりつけ医、御家族と話し合い状況を把握し事業所にて出来る事、出来ない事を見極め職員全員で支援するよう取り組んでいる。	入居契約時に重度化や終末期に向けた指針について同意を得ている。状態の変化が生じた際には意向を確認しながら、ホームのできることでないことなど、食事や医療処置など具体的な対応について協議している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について、内部研修や外部研修に参加している。消防署の方にも来て頂き心臓マッサージやAEDの使い方方法などの講習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をおこなっており昼夜を問わず入居者様が安全に避難できるよう訓練を行っている。自治会、近隣の方へ災害時の協力も願っている。緊急通報装置・スプリンクラーの設置もある。	夜間想定避難訓練を、2回/年行っている。車いすでの移動は困難なため居室で待機する等、消防署より指導も受けながら具体的に実施されている。	隣のコンビニエンスストアや地域住民との関係性が深くなっているため、今後は訓練への参加、役割分担等が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気を付け人生の先輩でもある入居者様に対して、常に尊敬の気持ちを忘れずにプライバシーに配慮した言葉かけや笑顔で優しく対応するなど心がけてる。「親しき仲にも礼儀あり」を常に職員に周知徹底している。	法人内の研修にて一人一人の尊厳やプライバシーについて共通認識を持つように周知されている。日頃のケアに際し、言葉使いや対応について注意され、指導が続けられている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定・自己選択が行える様声掛けし自分の意思が表現できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にし、その日の天候や健康状態に合わせて入居者の希望を尊重し日々穏やかに楽しく過ごして頂ける様支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度訪問美容が来訪し、カットや顔そりを行っている。日々の生活でも身だしなみには気を付けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを献立に活かし盛り付けを工夫し入居者様と職員が楽しく会話をしながら食事をしている。職員の手作りの軽食なども楽しんで頂いている。	ホームには調理担当職員が配置され、一人一人の状態に応じたバランスのよい食事が提供されている。認知症の進行があり食事がすすまない入居者にも個別のお椀や食材などの配慮を行い、家族会では入居者と家族の食事を企画する等楽しむための工夫がされている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検食簿や食事チェック表に一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量を記入して職員全員が把握している。摂取量が足りない入居者への強化にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。また、必要な方は1週間に1回訪問歯科を受けている。医師よりの助言や指導もある。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄シートに記入し一人ひとりのパターンを職員全員が把握している。また、時間毎のトイレ誘導など行い気持ち良く排泄出来るよう支援している。	排泄は記録表により一人一人のパターンを把握し誘導、介護するようにしている。夜間はオムツ着用の入居者に対しても日中は二人介助でトイレでの排泄を促すなど自立に向けた支援を行っている。また個々の状態に応じ歩行訓練や座位での体操を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に1日の水分摂取量などを記入し、水分強化やその方の好みにあわせた飲み物など工夫している。また、適度な運動を心がけている。食事摂取量も留意している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3～4回の入浴を基本としているが、本人の希望を聞き入浴日や時間など柔軟な対応も行っている。」	入浴は、3回/週、午後からゆっくりと入っていたり、リクライニング式のシャワーキャリーを活用するなど状態に応じた対応を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ち良く休息したり眠れるよう室温調整や換気などに配慮している。また、日々適度な運動など心がけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに薬の説明書をファイルし薬の副作用についても内部研修や定例会で学んで理解している。また、処方が変わった場合はミーティングシートに記載し症状の変化の確認に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中では洗濯たみなど無理の無いように参加されている。入居者の生活歴をいかした支援をおこないカラオケなどで気分転換もおこなう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブに出かけている。普段いけない所などご家族に声を掛け外出している。	季節感を少しでも感じていただけるよう、天候に応じ花見などの外出やイベントを毎月計画している。ホーム前の駐車場には天気が良ければ日光浴を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理ができる方がいれば自分で管理して頂き、お買い物などの支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけられる時はホームの電話を使用されている。使用時は、居室で使用するなどプライバシーに配慮した支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると開放的なリビング空間があり、対面キッチンになっており落ち着いた雰囲気のリビングになっている。リビングにマッサージチェアやソファがあり季節ごとの飾りがあり入居者が心地よく過ごせるよう工夫している。	リビングは対面式のキッチンになっており、入居者の安全を見守りながら対応できるようになっている。共有空間は、ボランティアの協力で生けられた花々やスタッフ手作りの季節の飾りがされ、今回改修された白い壁がより明るく居心地のよい空間を作っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや小部屋にベンチやソファを置きゆっくりと過ごせる場所作りに努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や御家族と相談しご本人の使い慣れた物を使用して頂き好みの物を飾られたりし居心地がよいように工夫している。	居室には家族との写真や使い慣れた調度品が持ち込まれ、一人一人の個性を引き出している。スタッフにより清潔に保たれ居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけできる事はして頂き自立した生活が送れるように、必要な場所には手すりをつけ物の配置にきを配り安全に努めている。		